LiPro評価基準（高校受験向けの通信教育）｜2025年2月調査

LiProでは高校受験向けの通信教育のランキング作成において、評価基準を作成いたしました。

当サイトは広告収入を元に運営されています。ユーザーの皆様に公正、かつ、正確な情報をお届けするために、広告にあたる商品・サービスには「PR」や「スポンサードリンク」などの記載をすることを遵守しています。「選び方」で紹介している情報は、必ずしも個々の商品の安全性・有効性を示しているわけではありません。商品を選ぶときの参考情報としてご利用ください。

調査概要

調査方法	調査した高校受験向けの通信教育を確認
調査実施期間	2025年2月19日～2月20日

1. 評価基準の設定の流れ

評価基準の設定の流れは以下の通りです。

1. 各高校受験向けの通信教育の公式サイトを確認
2. 評価基準の項目について調査
3. 評価基準をもとに評価をする

1-1. 各高校受験向けの通信教育の公式サイトを確認

調査する高校受験向けの通信教育の公式サイトにて、サービスの内容等を確認しました。

1-2. 評価基準の項目について調査

評価基準(「月額料金」「カリキュラム(受験対策の充実度)」「対応科目」「サポート内容(子供向け)」「サポート内容(保護者向け)」「合格実績」)の6項目に関して、高校受験向けの通信教育の公式サイトの情報を調査しました。

1-3. 評価基準をもとに評価をする

調査した情報を確認して、評価基準をもとに評価をしました。

2. 評価基準

評価基準(「月額料金」「カリキュラム(受験対策の充実度)」「対応科目」「サポート内容(子供向け)」「サポート内容(保護者向け)」「合格実績」)の6項目において、1～5までの評価基準を設定いたしました。

項目	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5
月額料金	20,000円以上	15,000円以内	10,000円以内	5,000円以内	3,000円以内
カリキュラム(受験対策の充実度)	受験範囲に全く対応していない、または非常に限定された内容カバーしかしていない。 模擬試験や過去問の演習が一切提供されていない。	受験範囲を十分にカバーできていない部分があり、過去問や模擬試験の提供がほとんどありません。 一部の地域や学校に対応しているが、受験全体に対するサポートが不足している。	受験範囲を網羅する教材や問題集が提供されているが、模擬試験や過去問演習の量や質にやや不足が見られる。 受験対策としては基本的なカリキュラムが備わっているが、難関校向けの特別な対策は不足している。	受験範囲や過去問には対応しているが、一部地域の情報や傾向に対応できていない部分がある。 模擬試験や過去問は提供されているが、回数や内容に制限があり、難関校対策にはやや不足している。	各都道府県の高校の傾向や範囲に完全対応しており、地域ごとの過去問や出題傾向に基づいたカリキュラムが充実している。難関校向けの特別対策講座がある。

対応科目	科目全体の対応はしておらず、主要範囲もカバーされていない。	多くの範囲がカバーされていないが、基本的なコンテンツは提供されている。	一部範囲が不足しているが、補助教材で補える。	ほぼ全範囲をカバーしており、必要なサポート教材が提供されている。	各科目（国語、数学、英語、理科、社会）のカリキュラムが高校受験に特化しており、全範囲を網羅している。
サポート内容（子供向け）	質問の回答が遅く、ほとんど来ない。講師とのコミュニケーションがほとんどない。個別の学習プランが提供されない。	質問に対する回答が遅い（1週間以上）やや慎重である。学習計画があまり調整されず、一律の対応である。	質問に対する回答が遅いこともあるが（1週間以内）、内容は分かりやすい。学習プランの提供はあるが、個別対応が少ない。	質問に対する回答が比較的早く（48時間以内）、質も高い。学習計画はおおむね提供され、フィードバックがある。	質問に対して回答が迅速（24時間以内）で、丁寧かつ適切。学習進捗が管理されており、得意・不得意分野が詳細に把握できる。
サポート内容（保護者向け）	保護者向けのセミナーやアドバイスの機会が全く提供されない。	保護者への進捗報告が不定期で、必要な情報が十分に伝わらないことが多い。	保護者向けのセミナーや資料はあるが、内容は一般的なものが多い。	保護者向けの指導やアドバイスの機会が定期的に提供されるが、個別対応は少ない。	必要に応じて保護者向けのカウンセリングやセミナーが提供され、受験の知識や指導法について学べる機会がある。
合格実績	実績の発表が全くしておらず、信頼感が欠けていると感じる 合格のためのサポートが最大限で、効果が期待できません。	実績がほとんど発表されておらず、内容が不明瞭である。 合格を目指すサポートが少なく、やや不足していると感じられる。	全国規模ではある程度の合格者数であり、地域によってばらつきがある。 実績の内容がある程度解消できない場合もあり、特定的な学校名があまり挙げられていません。	難関校や名門校には一定数の合格者が含まれている。 実績の発表に透明性があり、信頼に値する内容である。	難関校や有名高校の合格者が多く、実績が年々向上している。 合格者数の増加や合格校のランクなどが公式に発表され、信頼できるデータである。

2-1. 月額料金

高校受験向けの通信教育ごとに月額料金を5段階で評価しました。

2-2. カリキュラム（受験対策の充実度）

高校受験向けの通信教育によってさまざまなカリキュラムが用意されています。各都道府県の高校の傾向や範囲に完全対応しており、地域ごとの過去問や出題傾向に基づいたカリキュラムが充実しているかどうか、難関校向けの特別対策講座があるかどうかを評価の基準としました。

2-3. 対応科目

高校受験向けの通信教育によって、受講できる科目が異なります。各科目（国語、数学、英語、理科、社会）のカリキュラムが高校受験に特化しており、全範囲を網羅しているかどうかを評価の基準としました。

2-4. サポート内容（子供向け）

高校受験向けの通信教育によって、子供が受けられるサポート内容が異なります。質問に対する回答が迅速（24時間以内）で、丁寧かつ適切かどうか、学習進捗が管理されており、得意・不得意分野が詳細に把握できるかどうかを評価の基準としました。

2-5.サポート内容（保護者向け）

高校受験向けの通信教育によって、保護者が受けられるサポート内容が異なります。必要に応じて保護者向けのカウンセリングやセミナーが提供され、受験の知識や指導法について学べる機会があるかどうかを評価の基準としました。

2-6. 合格実績

高校受験向けの通信教育によって、合格実績を公開している場合としていない場合があります。難関校や有名高校の合格者が多く、実績が年々向上しているかどうか、合格者数の増加や合格校のランクなどが公式に発表され、信頼できるデータであるかどうかを評価の基準としました。

3. 調査した高校受験向けの通信教育

今回調査したのは下記の高校受験向けの通信教育です。

高校受験向けの通信教育	公式サイト
Z会の通信教育	公式サイト
スマイルゼミ	公式サイト
スタディサプリ	公式サイト

進研ゼミ中学講座	公式サイト
中学ポピー	公式サイト
東進オンライン学校 中学部	公式サイト
すらら	公式サイト
サブスタ	公式サイト
学研通信講座	公式サイト